

秋山郷の文化 (1)

「のよさ節」について

大平仁一さん(飯山市)の便りから

のよさ節。秋山地方に出来た歌で何期ごろからか、不明である
のよさの言葉も囃子言葉で野の良さを歌ったとも言われで不明である

のよさ節の歌詞と意味

- 1ー 彼氏と彼女の会話
- 2ー 彼氏と彼女の父の会話
- 3ー 踊りを踊っている様子
- 4ー 父と息子の子供作りの会話
- 5ー 父と息子の嫁取りの会話
- 6ー お年寄りが若者に踊りを教えた気持ち
- 7ー 終わりと交代

のよさ節の歌詞

- 1 逢いたい見たい逢いたい見たい 主の門まで のよさ三度来た
三度ばかなんだ 三度ばかなんだ せめて七たび のよさなぜ来ない
七たび来ても七たび来ても 主に逢わなきゃ のよさ深い闇
暗いと言うな 暗いと言うな 明かりは互いのかよさ胸にある
- 2 こい恋い小女郎 こい恋い小女郎 小松原までのよさ恋い小女郎
恋いとはだれだ 恋いとはだれだ 人の大事なのよさ小娘を
小娘ならば 小娘ならば 石のからとへ のよさ居れておけ
- 3 踊りの中で踊りの中で 昔なじみの のよさ声がする
声するはずだ 声するはずだ 音なじみは のよさ向こう側
- 4 うら内の衆は うら内の衆は 今年や大根 のよさどこに蒔く
どこにも蒔かぬ 何処にも蒔かぬ いつもかわらぬ のよさどての下
- 5 おら内の衆は うら内の衆は 嫁取ること のよさ忘れたか
忘れはせぬが 忘れはせぬが 稲の出穂見て のよさ嫁を取る
嫁を取ってくれば 嫁取ってくれば 一駄刈る章 のよさ二駄刈る
稲の出穂みたが 稲の出穂みたが 今年一年のよさ我慢すれ
我慢はするが 我慢はするが 月に雪駄が のよさ五、六足
よればかなんだ そればかなんだ うら若いときゃ のよさ五十五足

のよさ節続き

- 6 この地の村で この地のむらで 踊る若い衆 のよさこれだけか
 まだあるけれど まだあるけれど 踊り知らずで のよさ出てこない
 知らなきやおせる 知らなきやおせる お手をたたいてのよさ地を踏んで
- 7 皆様ご苦労 皆様ご苦労 遠い所 のよさご苦労様
 帰りにゃ送る 帰りにゃ送る せめてこの地の のよさ村はずれ
 そればかなんた そればかなんだ せめて私の のよさ内までも
 皆様ご苦労皆様ご苦労 まずはここで のよさおしまいに

のよさ節の伝説 2000 秋山小学校の六年の皆さんが発表したものです 其の1部書いて見ました 秋山の文化忘れずに残したいものです

音頭取り うら内の衆はうら内の衆は 嫁取るこのよさと忘れたか

合唱返し

忘れたか

忘れたか

嫁取ること のよさ忘れたか

返し文句書いて居ませんが 後の句二回唄い途中から唄います

帰れには送る 帰りにゃ送る せめて貴女の のよさ内までも

合唱返し 内までも内までも せめて貴女の のよさ内までも

- ◎ うら家の衆はうら家の衆は 嫁取ることのよさ忘れたか
- ◎ 「合唱>以下略 忘れたか忘れたか嫁とることのよさ忘れたか
- ◎ 忘れはせぬが忘れはせぬが 稲の出穂見てのよさ嫁をとる
- ◎ 嫁取ってくれりや嫁とってくれりや 一段かる草のよさ二段かる
- ◎ 二段の草も二段の草も 鎌はいらないのよさ手でむしる
- ◎ 稲の出穂見たら稲の出穂見たら 今年しゃ一年のよさ我慢すれ
- ◎ 我慢はするが我慢はするが 月に雪だかのよさ五六足
- ◎ そればかなんだそればかなんだ おらが若いときゃのよさ二十五足
- ◎ 逢いたい見たい逢いたいみたい 主の門までのよさ三度きた
- ◎ 三度ばかなんだ三度ばかなんだ せめて七たびのよさなぜこない
- ◎ 七たびきても七たびきても 主に逢いなきゃのよさ深のやみ
- ◎ 暗いというな暗いというな 明かりは互いのよさ胸にある
- ◎ あの高山をあの高山を クワでならしてのよさ平らかに
- ◎ 平らかにして平らかにして 主と私のよさ遊び
- ◎ 寝床寝床ねどこ寝床 寝床出されてのよさ台所
- ◎ 恋恋小女郎恋恋小女郎 小松原までのよさ恋小女
- ◎ 来いとは誰だ来いとは誰だ 人の大事なよさ小娘を
- ◎ 小娘らば小娘ならば 石の唐戸へのよさいれておけ
- ◎ 踊りの中に踊りの中で 昔馴染みのよさよき声がする
- ◎ 声するはずだ声するはずだ 昔なじみはのよさ向こう側
- ◎ 向こう側どこか向こう側どこか 昔なじみとのよさ肩並べ
- ◎ 踊りがそろた踊りがそろた 稲の出穂よりのよさよくそろた
- ◎ そろわせ置いてそろわせ置いて 明日は野山のよさ豆の章
- ◎ 豆草とりは豆の草とりは 汗がたれますのよさたくたくと
- ◎ たくたくやくとたくたくやくと 沢「そば」に清水をのよさ見て置いた
- ◎ 見ておいた清水見て置いた清水 俺が飲んだりのよさ飲ませたり
- ◎ 蝶のくせに蝶のくせに 花を見てかのよさ出てさわぐ
- ◎ 若い衆のくせに若い衆のくせに 女衆見てかのよさ出て騒ぐ
- ◎ 踊りの中に踊りの中に だれか一人のよさ品がよい
- ◎ 品の良い娘品のよい娘 嫁にほしいもんだのよさおら家に
- ◎ でっかい音たてろでっかい音たてろ たてりや音頭取りゃのよさ気がいさむ
- ◎ 踊りを止めて踊りを止めて 宮の後ろへのよさ行かないか
- ◎ 行きたい者は行きたい者は行きあれ おら三人でものよさ夜を明かす
- ◎ うら家の衆はうら家の衆は 今年大根のよさ何処にまく
- ◎ 何処にも蒔かぬ何処にも蒔かぬ 何時も変わらぬのよさどての下
- ◎ 音頭取りや駄目だ音頭取りや駄目だ 側の何方かのよさ交替に

「下甚句」・・・・・・・・・・

- ◎下へ下へと中津の水は どのいづこに止まるやら何処に止まるやら
- ◎下へ下へと行く水止めて 積る思いも流さず思いもに流さずに
- ◎下へ下へと枯れ木を流す 流す枯れ木に花が咲く 枯れ木に花が咲く
- ◎東苗場で西や鳥甲 あいの出会いは中津川 出会いは中津川
- ◎アユは瀬に住む鳥は木に止まる 人は情の下に住むな さけの下に住む
- ◎信州信濃のしんそばよりも 私や貴女のそばが良い 貴女のそばがよい
- ◎松になりたやとうげの松に 上り下りの人を待つ 下りの人を待つ
- ◎月の出頃と約束したに 月は早や出て松の影 早よ出て松の影
- ◎遠く離れて逢いたい時は 月が鏡となれば良い 鏡となれば良い
- ◎浅い川ならひさまでまくり 深く成るほどおびを解くなるほど帯をとく
- ◎来いと七たび来るなと八声 後の八声が気にかかる
- ◎高い山から谷底見れば ナスやキュウリ花盛り キュウリの花盛り
- ◎高い山にはかすみがかかる 可愛いあの娘にや身がからむ 身がからむ
- ◎お前百までわしゃ九十九まで ともに白髪のはえるまで 白髪のはえるまで
- ◎川の向こうへ糸巻きなげて たぐり寄せたい私のそばよ せたいわしのそば
- ◎世間渡るなら豆腐で渡れ まめ四角でやわらかい 四角でやわらかい
- ◎姉さん出て見ろい かが下る 可愛主さんが乗って下る 主さん乗ってくだる
- ◎ 可愛い男に馬方させて 鈴の鳴るたび出て見たい 鳴るたび出てみたい

秋山郷の文化 (2)

「チョイト 三階節」から

チョイトちょぼいちに五両敗けたハイ内には 内にはいられず大方老人すりゃ江戸だらず
 チョイト老人すりゃ江戸だらずハイ内には 内に入られず大方老人すりゃ江戸だらず
 チョイト京橋日本橋ハイ両国 両国板橋どちらへ行かの思案橋
 ちょいと行こかの思案橋ハイ両国板橋どちらへ行こかの思案橋
 チョイト妙神ほうき星ハイ夜明けの 夜明けの横星小金の子星が流れ星
 チョイト子星が流れ星ハイ夜明けの 夜明けの横星小金の子星が流れ星
 チョイト良い子だ国を名乗れハイ生まれは 高田の今町菊田の三郎さんの末娘
 チョイト三郎さんの末娘ハイ高田の 高田の今町菊田の三郎さんのすえむすめ
 チョイト良い子だ器量がよいハイ生まれは 生まれがよいやら育ちが良いやら器量がよい
 チョイト良いやら器量がよいハイ生まれは 生まれが良いやら育ちが良いやら器量がよい
 チョイト良いとこ松の山ハイ湯元の 湯元の八層は何ほどほど見事で声にしよう
 チョイト見事で声にしようハイ湯元の 湯元の八層葉何ほど見事で声にしよう
 チョイトよし原でよし刈ればハイ刈れそうで刈れそうで刈れない小風の吹たびかさかさと
 チョイト三角田の水口をハイ止めたと 止めたと思えばその又後からはらいます
 チョイトあとから払いますハイ止めたと 止めたと思えば其の又後からはらいます
 チョイト若い時やしやれたけどハイいまでは 年取りやしわよるお寺の墓場へ着くばかり
 チョイトお寺の墓場へつくばかりハイいまでは年取りやしわよるお寺の墓場に着くばかり
 チョイト姉さんの色手紙ハイ中には中には 中には市松小金や朝顔ちらと作く
 チョイト朝顔ちらと咲くハイ中には 中には市松小金や朝顔ちらとさく
 チョイト夜ばいこきや闇が良いハイ月夜に 月夜に通えば頭がぐらしゃらしてならぬ
 チョイトぐらぐらしてならぬハイ 月世に通えば頭がぐらぐらしてならぬ
 チョイト良い娘だおきますハイとうげの とうげの茶屋まで私がお前さん送ります
 チョイトお前さん送りますハイとうげの とうげの茶屋まで私がお前さん送ります
 チョイト東田尻や千田山ハイにしかたの 西方の坊さんお前の娘に穴がない
 チョイトお前の娘に穴がないハイ西方の 西方の坊さんお前の娘に穴がない
 チョイト横ね大谷内高野山ハイ目で山 日出山おとらと亀岡おけやさんながよい
 チョイトおけやさん仲が良いハイ日出山 日出山おとらと亀岡おけやさん仲がよい
 チョイトしめたるしおすの帯ハイ広いも 広いも狭いも姉さのお腰のしみかげん
 チョイトあねさのお腰のしみかげんハイしみかげん広いも狭いも姉さの腰のしみかげん
 チョイトとつさあとかかこもかけたあハイかけようが

掛けよがわるいのでおおきにおかみさんが腹たてた

チョイトオカミサン腹立てたハイ掛けようが

掛け様が悪いでおかみさんおおきに腹たてた